

日本の未来を託せる新人

自由民主党 千葉県第二選挙区 支部長

小林 鷹之 氏

ある人の紹介で2区の自民党支部長をしている小林さんに会うことになった。若手の政治を目指す人の中では頭一つ出ている。考え方もしっかりしているし、信念もある。性格も良く、気さくで、好感が持てる。誰に聞いても、短所らしいところは聞こえてこなかった。

八千代市の事務所の位置をフアックスで送ってもらい、駐車場に入ろうとすると、深いお辞儀で出迎えてくれた。

評判通りの好青年である。こちらは熟年2人組なのだが、改めての対談にも気後れがなかった。

東京大学法学部を1年留年して、大蔵省(現財務省)に入省したのだが、留年の理由が、ポト部のキャプテンとして最後までチームを組んだため、就職のために1年余分に大学に残った。それでも就職先が大蔵省なのでから秀才といえる。

入省後にハーバード大学行政大学院を終了、在米日本国大使館に外交官として出向した。これが政治を志すきっかけとなった。当地での友人、知人達の日本に対する評価が極めて低いことに考えさせられたと言う。こ

のままでは、日本が駄目になってしまふのではないか。その思いが抜け切らず、周囲の反対を押し切つて、財務省を退職。谷垣自民党総裁に直談判して国政を志す。

自民党の公募に応じ、地元でもある千葉県第二選挙区の支部長に就任し



た。

父親は商社に勤務したサラリーマンで、身内にも政治家はいない。資産らしいものもなく、妻と子ども3人家族。妻も勤めに出るようになったという。

この道は、いわば背水の陣である。「意志あるところに道はある」というのが好きな言葉であり、大学に入学した時、上を狙えるクラブの中からポト部を選び、4年間休むことがなかったというから意志も強い。

野党の自民党を選んだ理由は、多くの政党の中で唯一綱領のある政党であり、中でも、自主自立の条項が気に入ったからだという。自分の考えに添った選択をしているのだ。

ここで谷垣自民党総裁の推薦文を引用してみる。混乱する時代には、時代を切り拓く気概を持つ若者が必ず現れます。

ビジョンを描く創造力。自分の頭で考え抜く政策力。同志を募り、閉塞した社会を変革する突破力。これらの力に卓越した人物が小林鷹之さんです。鋭い国際感覚と幅広い人脈を持つ小林さんは世界に通用する若き逸材。同時に、その経歴からは想像できない人間臭い男

です。他人の思いを真摯に心で受け止めようとする、情に厚い彼に皆さんも一度振れてみて下さい。

近い将来、必ず日本を背負って立つことになるであろう小林さんが、皆さんと力を合わせて、地域と国の未来のカタチを創っていかれることを心から期待しています。

絆を力に。はばだけ日本！小林さんのキャッチフレーズである。

小林さんは定期的に「小林たかゆきからの手紙」と題して、討議資料を発行している。V.O.18には地域主権と題して、地方分権のありかたを独自の考え方で示している。国と地方の縦割りの地方分権ではなく、地方の自由な自立を前提としたもので、国民の生活と経済活動は地方で、国は地方ができない外交や安全保障などに集中と合理的で無理のない発想が描かれている。道州制もその一つの方法である。V.O.19は憲法改正である。流動する世界環境の中で、戦後、ドイツ58回、フランス27回、イタリア18回、カナダ15回、アメリカ6回と憲法を改正する中で日本はゼロ。世界環境にあつた独自の憲法に改正するのは自明の理であるとする。

小泉進二郎さんとも親交があり、共鳴。小林さんは新人とは思えない政治家であり、政策やそれに伴う考え方など、極めて説得力がある。

将来を託せる逸材であることに、異論はない。